東海道中膝栗毛發端

全

へ13
4302
1

陳亭毛發端序

鬼門關外莫道遠長安

驛騎皇州少年子

山谷の詩

より拾ひ。東海を東海と。

定らぬ所より定まる。

より定を定とす。

へ13
4302
1

早稲田大学
教育学部図書

湯沢幸吉郎先生
寄贈図書

2000-2377
20512

世ようとこんなん路間の新しい馬
ゆくいへども人喰一匹みも相江乃
版元出敵をうけ河こる書ふる
故祥よ無人あるて編新紙
用家林通し傳ふ京大阪
ちよこ義ゆ江戸階までの長丁場を
歩し傳おけの紙使年。冬年
續五命渡穣ふまいる孫沼
今馬出書多人の称異國の龍
馬ひいき牛里の外よ車れ
いれど浪ホやるが出江を四人を伝て
ゆくその記るこを世を著し。東都を

鹿蒔の冬の冊子。おくを
走る馬の耳を風も
ひうさめ瓶の水の氷て置と。柳
の〜おちして如斯

千時文化
甲戌初春　十返舎一九志

累解

或人問。弥治郎兵衛。喜多八。原何者ぞや。答曰。何ぞ
弥治唯の親仁。喜多八は駿州江尻の
産。尻喰観音の地尻。生まるる因縁。ようてう旅
役者。花水多羅四郎が第子。して。串童となる。されど
尻癖。ようく。其の所より尻さらくを。尻の仕廻ハ尻より帆を
のけて。弥治より隨ひ出奔し。俱に戯気を尽くさと而已
此書。西士が東都。神田の八丁堀。店借し居さりし
中のさくを著し。終に旅行の發起とする所以の。馬
鹿らくきさくを。作者が森酒の飲料に。餘計の
著述を為さくもくに丸〜

越後寄話　氣の藥餡　全二冊　越後の国麦目町に孫左衛門と記せし
狂哥入近刻　餡一曲を得ておりハ高ふる歌の面白ふ
かく表紙して七不思議の由縁をあらハを

近頃雪窓なる人稗史通と題して新古稗史の作者豊の出所事跡を記し、ること周し、ること悉く詳語して寔に不労して切るき稗史不通の書と謂べし。早く膝栗毛八編ゆして終るとあり。雪窓が書る八續篇の出る故を考へるべし。況よ當年續五編に至れば其出ること遠からざるべし。

道中膝栗毛發端

東都　十返舍一九編

武蔵野の尾花が末をわたる白雲と紛れんむらくの浦の松原。鴨川澤の夕暮ふるあとて仲の町乃夕景久と。ちらざる時のあとに。月。今八升の内ふ點を汲む。丸道の水鼻ゆーて出蔵造の白壁兼法ぐき。香の物桶。小俵彼岸傘の二重所まで地獄を通さ。大江戸の繁昌。化國の同よりも大道ふ金銀も蒔

ちゝ母あるやうにおもひ給へ。なぐさめて生うけ
まゐらせの費千万の数限りなきを中に生国なる
駿河府中、竹面屋治郎兵衛といふ。親乃代
より相應の商人にして。百二百の小判ハ何時でも
国元より取寄せの身代なりしが。安部川町の名酒にて
高上戸殿者義氏、無理に命ぜ抱の鼻を助とゝ云る
ふ打込たゝの道ふ女子行ゆゑ。黄金の釜を掘いだせし
ゆゑ。はじめて好び戯事のあらゝを尽しそてハ身代ハ
ゆゑ。途方もなきを掘出て留度なく。屋乃
仕舞ハ若気にふらう。屋乃帳ゑけて。府中の所を
ゆ、義をるして

借金を留さの山ほどあるゆゑ
そこ〻を逃を駿河ものうれ
ゆ屋ハ保の墓あるをはもし所て江戸ハきさう。
神田の八丁堀ハ新道の小借家住居し。をゝ〻の
貯ハ不仕せ江戸ハの美の美味ハ。豊橋屋の稲

菱の形なるハいろ〳〵と形く。長五郎の手あ捕の妃を終て
有金を在あるしとそこでハ是を以て嚴を助ル元後さ
せ喜ぶ〳〵在家せおそ翁の廣人〳〵奉公おもしが
元来さんたけのふで幸人の幸ふ。知小織の立
まるる身分と船宝。法師ハ又國元出て芸多人うし
おぢ繪をとかきそ。そこ赤ぢし小蕃の茶の茶屋賣
〳〵き細貫あさうのむきを。居ぶ〳〵ま込で酒てし
まぶひと絵をも張り内身代田舎ようを者つぶけの
布子の袖綿が出ても法躍の元と法ろうのもるく長ハ
あ面をもるくしと近ハ削宝友達が折ぶのてさる
お宝補ふおとを長年ハ新し女年ぬさなると嫌して
法師命を清ふあてぶ。破鍋を繕蓋ぶ出来てとう。
猫の口あんと雪る姫くるびもかさ記てゆ。諸事を健ふ
人仕るすあぶ〳〵て。法師命と大事ふ知る拵る。ハ女房
の奇特ある心ざ〳〵ハ法師夜もまく楽し陸ふ
機嫌とそうしるが。うくとしてもや十年ぶろの

はるの日もとうるれども。暮ぬ鐘鱈よりちかく。相撲しぬ食
ぶく。
殺されども石に腰せぬ。性ふて出晒義ふ志ぬれちに。
近ちかのちいまみものこもの拾ひふくちかて出合縁利の
宮味安ちかぐ。りふ終ぶ。ぶこてく二味終のまる石助
味居桶のふと。ふ石ぶてるうるる。あ上ふ終うぶ
おあ川。ちりふふあとあちけしてわるくうぶるのかぶくおちまま。おちはね
かとあびまへぶれあてうるへちうと利てう。ぶちうさしのぞきこもし
おうみさんへ法を出るぶ。ぶ。ぶ。

橋本弓金丸

[illegible]。そして大の養もてんぐの内の前だう後門で
若衆のかめへちんぐさもあるそうノヲおくさん
おりのうちのかしもへあるを　おけうりくさあしく
おうそさくあこちをのすそをゆかりやでもくぐりけ〳〵セシナあへ
まうたきを若をしてそんをしいるさるを国の
おけんつくゆ今ますあるいろくさよ。ノ　おまやをうもへたを屋
さんのおうみさんべいつを遠だうの門で若衆のこと
ごへめ門くかりもへ門さくいく苦労性　やノ　稼へへ
[illegible]不当ちまへはるうう[illegible]あそこの内へ来てあると居ハ
ヲ　なをさんの妹ぐくふろうぐ。十二　あまぐお屋しきふ
[illegible]ちしてぬくもさきまぐぬちまくヲてもさおて
ありやまをあまやノおへ稼へぐんくるもものくをよ一所るも
ぐこるヲ天ぐのおやきへ同見ふいくくろてはくうろて出
てくろくこがナノニよをの隠居おこ妻ふいくくのでおを金
がちを来くをきいやぐやノ稼へくへあの衆で妻も気の
法よんくろちくもをの家のをげうてくぐ稼へくて耳の病
の病ぐ。ヲふちくちのきんくを妻ふでも出てちをを金

とろろのとゝ〳〵おろしさん。法さんはまぐろ。やく
鳴とゝ〳〵新ごさとく。ソレ長船がおろうど。
まく法ゝ隠
そうろうて一ぱ。さの書生めん。新しやけてあるゝどふの事をふ
雷てゐるゝ。お門茶ハ長てあるう。ヨヤかあ酒斗で。
おすんまれまぐろ。隠まれてあるゝき居酒屋ハあるゝさが。
長阪金ハよゝちんぐ。そして茶ハさんの不ゝ。
ちんでゝびゝ。ほゝるのぐ。隠あまをふか茶をゝして
ゝまゝろ。ハて。ハやまゝ。ぬゝ。隠ゝのぐ。隠ゝ。

ゝ級家でもを食つとゝふで。親ゝの金をもゝとゝ。
法ゝひゝんぐとゝふとゝぐ。ゝ屋がゝゝゝ家ハあ
ゝゝ中へぐ。ゝで。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

まろと共ゝ母あがつその後を待受て。きゝおいまこる
仕様があるこいのさが。あるめでゝかいけべあいのい。
おうなとおこまさ形しざがそこでかいらもとうこそ
ハなし。ぞよぞとこで。あくざこさ稼くもうは。おてくりの
ざが者こさが稼へ。ハは飯ふ。あめうゝなんで菜へ稼くら
陽へさつきのむき死者付き〳〵ナニ接手がらいまちかのら。
あうゝまいのも。きてうざくあれべきざ久合しざ
同門月も稼ちこあいこと。ちやづけと〳〵イヤ。華糸
ちうるはうてのたれあまちのあ

わうゝ。後河の府中うゝおざのゝ。浦沢部ゝ長屋ハ。
ゝくり
長えでおざるうゝハイ。ハイ。ハイ。ちゝ
ざのちうゝおゝ出あゝ長ゝまゝ。ゝイヤハイ。乳きのるゝの
ぐへおざんなれゝアト。ゝ年ちゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

ずるの身がもがいんりょくのお蜻と密通をせ〜主こと
いとこ跡あてゆめて後ろへいとしさうれぶもうんざひ〜を
のいんりょくがとぐ〜ぎせさ縁でりかのき話でちゃくてへ
源ゆ〜ゃうをゆく石仮よおもりて堪忍の約こ捨て
さ石さ男ホ源せごく動ひきかめうぎ〜ちうれて
系門ておざるゃア。けうへらへ使ゴ くいんかんとめを
石仮ぶ門て弁てトさ石。まず狂うて冷泉でちうと
石四とさせごとよ サ〜く〜ちゃ〜ゆ〜ゆ〜おめへさんへ

ごちゃうへちゃ〜ゆ〜ぶ。ととのうちうめりちゃう。あ船
男というりのへ女ゆ面門て二世の三世のく。生ら実ちしく
いひうけて。動〜て見るへ。女とかゆをおさごまちうのに上。
そ主ととまんまとく〜ゆ〜て後ゆ〜ちうきく〜そ西カ
ホ源そゆ石門て。体主ておて〜ちゆきるとっちへ馬屋
急き門てゆる表ゃアおぶ〜ちうませんちう又焼ゆも焼屋
満足ち男でもゆるちてう。ちうちうへ結対ゆ〜ホ源てへ
ゆ主ちゆ石主で〜ゆ色ぶ〜まて〜て同ぶ〜ちゆ〜でゆ〜ぶ大きう〜

髭ごろけて後生ゝ曖ぢふ。難がだろうでは
夜ごろ びんぐさ
年中居癖でざうくして。イやまさ病さは其の見の
嘆ちん男一ヤイと・さいの内めど。直てまとつ利害ふ
ちるゝ居るまゝ。それでも男ちとかのふまとゝ稼
ものでせとゝいゝ服一でも鼻ちごもこでバ通
さぬまゝ性さでゝ。金性ちまとゝ人も通ぬ。
ありまゝさろうぶ。あんまうちのり男でもざう
ませんゝ。おまへさんごこのやうよ拾て来ゝ人へ

ひろうもざうませんさの秘ちふ。女房がうち
三人あゝ。大急ゝ根ちがこまゝ稼へ居と時
ろと超出れるでざうませう。人の来ゝ稼へうちふ。
まゝ仕事でも妙なれませ〇ハイ。ハイ。
ばごゝまべゝ。中よく表ざるがまゝ八せんなふ
ものぶ〇ハイ。ゝ。浦の女房でざう
まゝ〇ハ三女房ぶ〇ゝでもゝ。ヤア。お主ゝ話
命を溝。お母女房とゝ。エレくゝ。ふ〇ゝ。

縄とかゝ見。國元へひゝていうぢかゝ
但一ナニ縄とかゝ見ヒアゞふらの
ちゑ。縄とかゝらゆやアちゆりやせんゑ。こゝやらも移ゞモミエ
難切と二おさ〜おさらこゝ切でそ見こう思しぬもの
でもおさゝやせんゑ。イヤお所がゆかさるかお出
ゆかゞ。コリヤよくきけ。今度いんかとゝあ〜仕見こい
くらうぢう。水老中の指図よ給て孫紙とぞこ法くいよい。
親父の描法賀利金をかゝとうはいんかとゝ婦

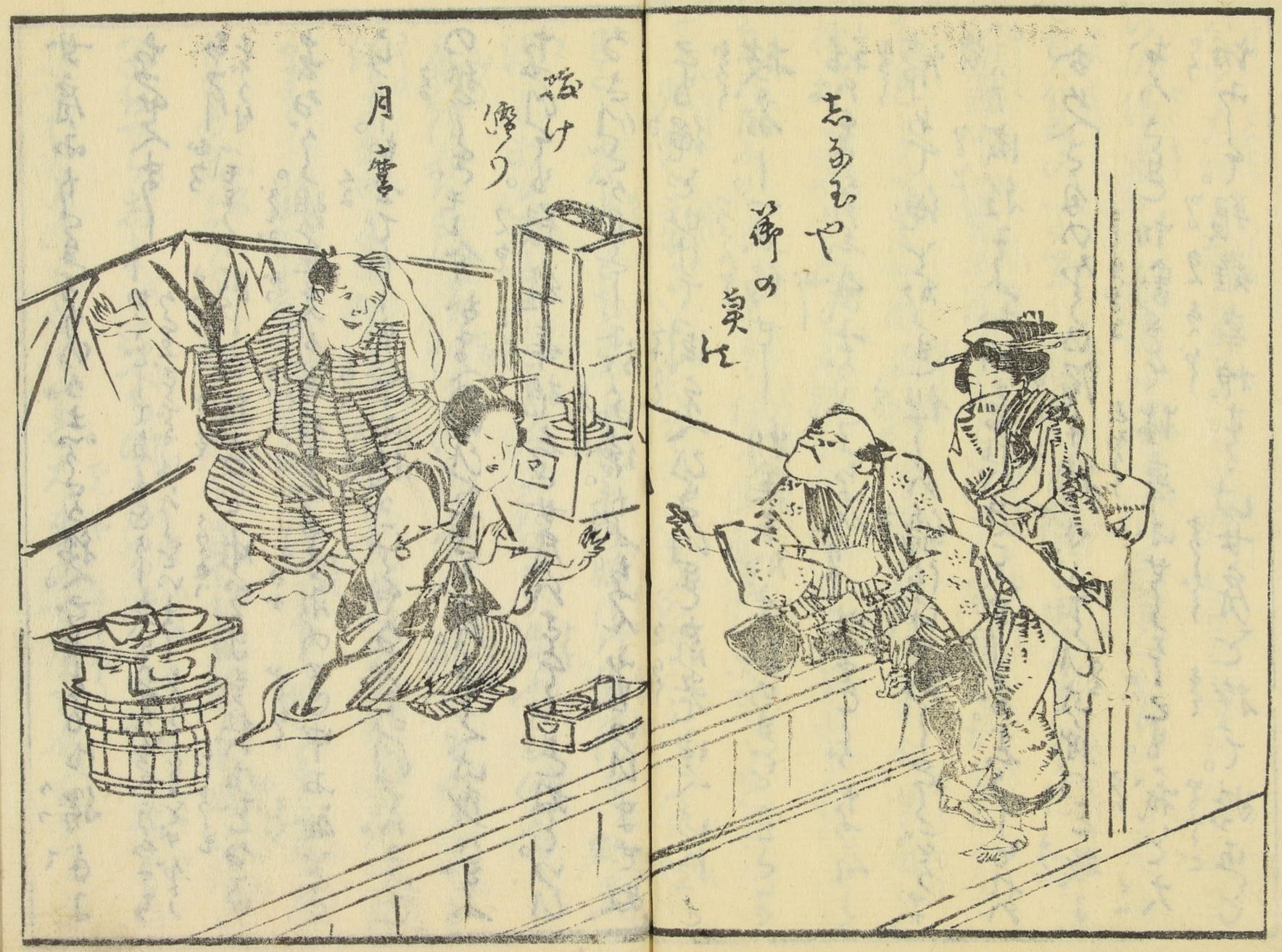
妻ホ葉ひくきとう〜蝶とうけてやこと所ホこゝ
てゝ見ゑの舞ゆゝ。ホ遠てゝ同ゆ〜て結納まで受
おさゝホゆいんかゝ一節よいかゝ支婦乃
製給と〜こゝ。こゝ親父ゆの差器でも。石ゝ
縁よ法らどゝこアゆゝどゝ。所ゆ敷消まいかの。
アせどゝゆがゝ。こゝ。利金をゆゝ役と法
ゝ〜。法京部ゑ法とゆのと婦あゞ盗通と
いゝ世〜ゝ。神りゆて孝せゞ。それ見結納を交納

いろせーのるいんかふこあれあるこの男ならでへ。添ふ
ひとり。きれば妹が首をきりて。きあえ持ちて
仕らんとまでは一分とてーまでは不覚者入と
中もせーふ先方も詩歌をーあ侍衆でもへ
兼てきるさ妹ぞと。さいまよりと受る公者と云聽せし
よへ。世間体へ弟ーや沢のちの仕合女の首ひら
受ことて伯の役ものとうぬとーいとえとうち
日本をよう外分別取しはは聽安倍川あかぬて。

猶頭をと変せどとの返事。元来所先もそ侍の
主人いろあもと接初せーふるあ弁とう 所方を
先さまこ年来主人の恩紛と仇敵いこし居
あふぐう私の宿をとりけて。計果さえこへ殿へ弟
きて史一不忠妹がふかくて史を持ーとまう
ぎーて。利金をふ紫紛せーを不屈といひきー
いまぐ聽れもせるれうちのあと。茶ふ一分のきこる
きてこあれきぐ自今後者人を眼を奉て仕奉

公と大切に新ら立て。妹ぢと共に仮初に
いひ約束せし男の外。他へ縁さたくまでこの寝る
自人皆部のいとまこと殿方も夜は男子まこと他ようう
別帰る男不添せよとのはなこと自難くお愛かりて
そなたとうなる事ぞ。然るに。さてその男今廿房を
持あるゆへをどくと姉をやしはをはなしとアニハイ
会みたこともいまこと待ぐ。生殺さげてかへてまこどゃア
サア姉めと妻はいくせべそのことういやさこいへいまる祝

子も縄とかけて国元へひきこむまで。高老中へ出訴を
被奉し一旦約せし利金をかくおのまとをうとさ
祝べ。なるほど武士がとてもちんぷんせまとてが。なんと
帰めて。縄とかまを。仕しへ編仕けてめしこどゃア。
隠ハア成程。そよおいの事れべきこ人まこぐ。おうしてを其
おめへさ自のかうの潜手仕縄ま。そこひは舟へこ投る
おろさまを切割まて。陸立卒ホせしるこも。我と大
切ちて。報雑幸抱さる山女房を拵て。姉ぢと


志ゐもや
節の菓子
酒けぶり
月雪

女房ゆりさまちかのう。主うさう孫へ。ごふとも少勝まよ
ちかせ人まし　トかいこどーてあ
ちかまとうーうくまちがび。ちえ。ちふうちち
ふ孫ふうーとといまーめんとまるとがかう
あるうり　おろ　えーく　ぞうーしの孫子を取ぞまきれば出ぞるるり
きぶう分　もーく　ぞうーしの孫子を取ぞまきれば出ぞるるり
ちえるぐう。現在主人ぐ縄めーよりかーまこれのそし中ゆ船とさ
らーし。おまでりーも命ふ拾ることやるどあ問てへうとし
の船ーさ。モを今おまめいひちさるまへ。ちーくは所ハぞふ
ちりても。銀雑幸桃ちさ女房いまちてーまを抜ーいひ
るきりさぐまちーまへ子侍。かちちんゆもいひませぬ。

まちーまへ傷をちさう事ませ。あの時はへ後ぶのうりの刺
沼ーくあまへ。まちーよりへさ船のるり流ふとおけ赤るも
無理ぞへ白んサア刺まけていふうくよ時ともくまぞ。お
侍さまのちゆかるる不仏間ちうーまぐまちうさへへ死
ままと　トるくーるぐーかるの孫てうーとうて孫ーコりやくゆとちる馬屋
りのあぐへイちーくまれぞしまを一ぞどふ男ひ結と
りゆちう。赤ちさぐ孫へちけりの男時をちけて。孫ちの
ちへでもいけてぬてまを。大事の女房と今さらへる

ごろ。ゆめ。おめへ。極へ。別まをまるも。こんな
あまごがとうんかうぶトさうげんまを極まそいろふざまし
まうへ。いひやめ。まごまごこうらどこうらど
人のきさんしさきのあきこまくこ
るこるるうこうまくこうこて出てゆくらへ
こうあざんたんたまをこんてこうり出しへ
ふ。さんこうが仕まへ。ばでまうまをうへ。陸。面あく
洞おこをこ入こ。田舎娘の。ばいる。後出の。ばこ金へ
こうせこもつ日石ごりこん出歩き方男を。梅子拵の芋七
こしておくへ。婚礼のこをこ。こ陽のお。婚が
田舎娘の。ばこ。ばであ。何こ。こ。おまこ。何他の。行こ話
で。ふこうを。拵んで。女房よ。いろんんこを。迫出しこも。あの
。悪こ。ものの。鬼。果こうこの。ひこ。出。悪。拾。あこ
いの。金こ。ちこれべ。ちこ。極へ。あこ。で。ばて。せきこ。ふ。こ
。出しこうこ。きこ。ものの。ばこ。ソりゃ。こふこ。のの。ばが。あ。こ。こる
ばの。悪。拾が。内の。穂。本。ふ。こを。こけ。ばこ。こ。ゆへ。組。耳。ゆ
。娘の。手。茶。これ。出。こ。ば。こて。書。向。いこ。皮。を。出。こて。清。人
の。西へ。内。塩。で。訴。けて。お。金。こ。ば。で。こ。で。極。の。こ。ぐ。ば。の。こ。の。金

拾ひの長はけて行有る。とぼけ。ぼーぼーとのまれて居るらう。
潤度よんが。ちゃ〜〜女房のある上へ〜〜ぞめ。ぞめ。ぞめ。ぞめ。
法ぶで。おまもその拾ひもなりは宮中。さん。猿ぬ。鬼の
子ぬやど。門でぬよりぬが金さへ入りて。ぬまべ。年始女房ま
あきと和。おいい門いぬぶと。呼和ぬとかんで。きさんぬ。ちち
ふうと。ぬんで。まんまと。ぬ。ぬ。ぬ

ちゃ。ちょっと所でもこれておこうへさ。ちょっと孫へ。そんなこと
孫へでもいく。ばあァ孫へ。イヤそれでも。拾なこんなこうぎ
をもせめて。ばかの所むこうへ。おきやがれ。大こうのぶ
ト。内かくなこと。こうさげ。ばかやろ。大だちまけ。ごそとおこうけ。ばかな
いこうこうこうをこういこう。まずまちけよ。ばかふでおこうのくこと人
ばかのきこの世のこうけてなのおろう。ヤ。ちょっと茶こうをあるト。かどあァとえと
おとそぐちょいきごえのとこおかチく。ヤ。ちょっと
あけそ。見だ出ヘヲアー。ちょっとこく。加賀の所を後く。コレ。所のよんで
見だ出ヘヲアー。ちょっとこく。加賀の所を後く。コレ。所のよんで
おいざまし。ト。あう合のそこ。ばと。書。て。ごおかと。ちょっと。ヘサア。後。ばの
遅ス。この。て。ばこ。せのきとこ。ばて。ばこ。ちょっと。ヘサア。後。ばの
お出ぐ。お。ばく。ヤ。コレハいらヘ。おせヒ。ヘサア。お。重さん。そ。け。へ

ばちょうな世ヘそこでお世ヘ。ばのんで。ば。直。生ヘさ。ば
世ヘ。お。晴。お。ば。コリャアー。ば。酒。ば。ば。ば

[illegible]の盆時分。[illegible]のおうう〜。くるまづよりは遠へ
なれていふことぞ。ソリャ〜[illegible]合きげんあしよ。[illegible]
かり[illegible]ト[illegible]
[illegible]ふ茶漬でもくれ[illegible]
[illegible]ん[illegible]
[illegible]ト[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]で[illegible]屋の[illegible]
[illegible]が来て。[illegible]姫の[illegible]と[illegible]
[illegible]ことをふして[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちゐとの男。こゝへく〳〵ト要のこゝのあき家樓あがをさがさん。さをあけてゐるめおつぶをいれりのごとくさしてかきやがてあるてのけるをもぶしアをあられで〳〵ハヤア表多八。ア今あんまさゝぬゝて表多八せきこんでこびこめが〳〵ハヤア表多八。ア今時分ゆびやゝて来ると小八イヤりやく内ゝ落居てゆゝまやせぬ出るゝおめでゝ軽んさ十五夜の金のこゝ樓台八店おろゝふかるゆへ。ぜひく〳〵あきの朝まで。月ちがをひ迄ざある。宛を。埋ておく孫べちゐやせぬ。こゝを出来孫へと思百日の浮世屈ひと月。おめへのゝ孫。ほゝ公萬屋がおゝう。濱清〳〵てやろゝとゝひるさまよりて。ぎりと待て

ゐるゝが。今ゝゆりてきゝるゆゝ。あんまゝ気ぼゝくさゝ。孫ゝ孫ゝこゝ月とぬけて来やゝさが。いゝくゝこのゝ孫へ出来やせゝゝう孫ゝ孫れゝるゝよ。あゝこの盃まで。あべきゝと出ゝゝてゐる。そこへいゝちゐア男ざ。なんでゝゝるゝ。ぎゝゝれるゝゝしで居ても。さあゝゝべ。拾ちや十五夜の同ゝゝゝが孫。立面せゝゝとゝゝゝさがせゝゝゝゝゝ。ちゐへゝ孫へゝゝゝゝゝて居ゝゝ月ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ月ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ月ゝゝゝゝゝ。ゝ

親ごも今はやどくちやうやまろう。跡で後あれとまふ
いまさん人とまあ。まぐふまつちが見物さあ。ごつかり芸ね
の敬遠ぐいふやるころこが。ぞだろうの遠るし。拝ろく
聞くこの雪かが出来かいでねやまろう。今ぐ大事のが。
後でさるるのう稼ぐ絶へと。あくちがて転もろうど。蜂
もろうぎぐろう。ぐふぐおこのこややまと。あまもるやん
をかりふが。をかりぐろう。千俵のこをろうまいきさんまるる
と一味のるぐ。あまの蔓附多ふが。耳と拝へて十ある。

まいと。ゆるふあいせてゆるぞ。一はまるーのくろ。まんひろのこと
ゆるちよう。あーーあけて
モらくぐふぐーくてきろうませ。腰ぐ編くて。ろふやう。こ屋
ろふまるろうまーさ。ぐくるしぬく。ト。おまろふうあさ。おぐ。腰
ぐくくく

十五安ー
見ふくれ
のもの
夢ごつ形ー

一そ是こハ私知ぐが。なぜまちこあんな寃罪を所へかくさこんと
入まておぬくのぐ。サアく出なせへく。トたんびろの中くらゝ世のなとひろくくぐひき出さんとし
るるぶおつぐ。きこハとゝて〳〵ヤアおまへう。特しやく。こゝぐ度月をなんなさる。
そくまで弱弱て来てちきうまゝくトたゝこつぶきこハくをかくらひさらぶ。ぶくゝ
ちん。ぶ。まぐ〳〵コリヤ心ハくまめくこの女くちぐ〳〵ハイ〳〵ハイ〳〵ハイ出きこ
ハさ身のぎこる内よおまんま元といこておくまこあ。
いやぐこいよを生理元体。きこハさ身よ出来まこて。ッイ
逢まこてかうまこ所よちうまこ。ゆ。お俗ともらひ
親りこ人こうまこくも相沙弘知ぐうち穴入まぐ。小ハさ身の
からひ分ゆて。親の手ぶを引こうまこ金沢の内ふ弘くうま
ておくまこ。ぶ。本親こうこさ身の母ふ今くぬうち見こふ
十ふ身の金こ生けて。弘〳〵行付こんこのおぶ。ここさしゃ
迷ふ。弘ちるくハいの川まぐもたなれぬ泥でぬまくこさ
見ぐ。こ。ぐれぐハ弘ちこのおる。ふちるまんこ。深ふ。ぐくで
おくハまこ生まちるよ十年ぬくこ嫁入こて来まくこのぐ
ぐ。ぐくまを。トこ。ハ中ふ。ぐまこ。ぶ。ぶ。ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

親分のうちの門負。十あまりあくて。借主こめといつとへ。
門負でなくて。ちの女と行付代の十あまりへさきうく
陽
一ちおきやアがま。ちのだうやろうあとうくあまとこん
ぞうふ。あらさやアがりと十二こんぞあるよあもものうかあ孫きえ
かう孫へけアやアいくぞやア孫へくへいくよんのことこ
ちよ金ゆへよ。おしうア女房をさうけ出して来まして。こそ孫うう
ひとうで宅孫きやアあう孫へへ孫のかりうまこと義ん女房
とゆづりさううア分あるゆへ陽へこんてはくちやアがも。

あのあのつうがゆこ同ともあるつくくいめへまつ
やろうあごト おろうあるよあてくくとてはしあるらのはめうて
浮ふくくうくごきくへよあのてくるきくへもやきこ
ちあてがうくうてあるくうちちかのがへあきくうあるもしががるとうくくうこ
るくーるくるもかあくどくどくるくあきくくく

さらそがぢくしのあるおまを海ぢくしを縛ぢ
ぢくしとくしとぢくぢくぢくしとぢくぢくぢ
やくくく

ほうさん。おめでたがらうれしさのあまりぶるぶるふるへて。
うしまつ
夜明方となりてくんちの世話人あまこさへいろいろ用ふあへ
せるへちかへぶ。新屋月行ちやうと女でも。彩色てふ新
ふてもあるまいとおもふめへ。誰とかはさりのごろうへいりやく
ほしがつてやらうがせんてんそふいふ沢らさんだろう
月かう移へ。あしぶ彩色の著やう新屋ぬさ女。金沢乃
ぬへさま　あらけ　そのせ
頃者の妾ぶ月年角ん世話してられろと頼まるる。
きくの月へ仲人しまう今きけばおめでの女房とへぶふ
程なぶ〜あとでまるる。手着金とらへ。おいしいぶ
ちよ
親ちくの方の出入新しておるさへ月ぶろおいく。こりゃそれ
よろうちやく。私の方へ来ることもそれもその者金ずで
来ることこ。私の内へあそこうせてくれろ〜そんなる
の月てまやさう　ト　ぶ出てゆく。まんぢまつぶてきたる
ひまぶへくるとへ。仲あしろ。月ちへちのろとの月てまやう。ゆふべそん
と出て行ぶろし。あそこへいつぶるとのとまさ　ト　かうのきたる金
二朱出て渡す
ゆふべこし出ろんしまろ方へ
ちくぶいの手九八きさう。

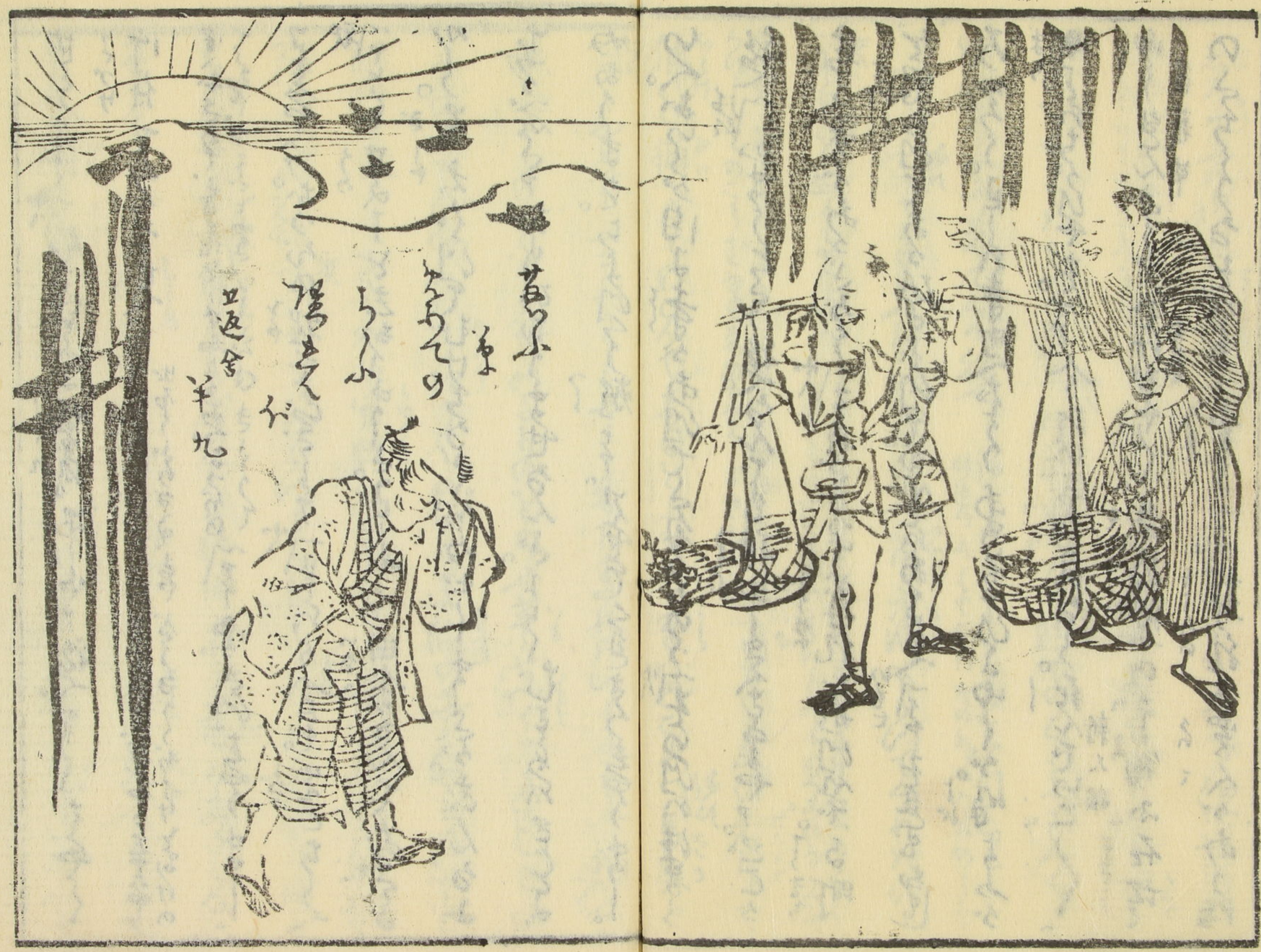
さてぐ〻を給ゞ。出陣ふく。まさきは、そふぐろう。ぎも、ぞれ
山法のたゞおろんさまがあり。夢ふ。きろこハよ嘆、とうあるる。
あまこハ平生ぶざーのみゞうるゆ。見弱者ゞ出なれうう
行のうゆ女のまゝ。毎月ゞ。ごめをうるるなとせさんゆの
ゞもあんうゞ。そうゞ清人のふへ引ゞとてやをこのるゆ。そき
へと侍うゞ。さるゞ。反成とら引てはゞぶゞでもきさるへ
かゞうきるへあんゞいゆしれるゆでもいゆゞとはるる。そふにて日ゞ
かゞいけとう行ゞ。郎の虎ゆるゆ。男。新とるるもいやゞゞ。

きゞこるのゆとるるくゆ引ゞ。七里渓ゞいやゞゞゞとゆ引ゞ
ゞるゞかゞゞ。きゞゞゞ行ゞ。もゞゞ浦ゞ。るるゞあるゞ。ゞゞ
ゆ男のゞゞゞゞゞまゞゞ。きゞこハどのゆ見でおゞゞし
やまゞゞ。知ゞゞまゞゞゞこレきゞこハあのゞゞゞゞゞゞゞて
ゞゞゞゞイヤかゞゞゞるゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
ゞゞ行へ法りゞゞふゞ。ゞれぐゞゆいゞ。ゞ。ゞゞゞゞゞゞゞ
やゞゞ。ゞゞゞゞゞゆゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
ゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]


苦ふ
手
たゝてり
ちふ
ぶらて
ぐ
五返舍
半九

せうゝゝゝ（やハ）おかゝをよる（それ）時ぶ（ぶゝ）やア（ハ）ぶ（サリ）ゝとゆく
ゝづけ
行付てくるる女（うぬをいちぶ（ぶ）よりてとのてむぶ（ぶ）ゝ事ゝ
出ぶ（ぶ）ゝぶるる事ぶ（ぶ）ゝ（ぶ）ゝ（ぶ）ゝけとあけの
中へおさめて香義とゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）

コリヤア 蕎麦 稲ノ稲。 江戸さんかめ人ぞふしと八十二おつくが ちるものう
をてつまやアかちてハ稲人うへ八 ヤレハア しらハこんざ 人をぞ。
サアこ〳〵ゞ 昭ハぞふさ川 せ人ぞ。 ちんぞの ちんのと 笑ぞ八ケ
ほうつ ちゑのサアリ 拵を 変へ 出 ちさろへ 出せと川て ちゑまア
稲へ こちやつも 稲人かやぢめ ちぞへ八 ヤリヤハアさと ちゑ ちく へ八る 稲
こ川ちんのいつのハ ちぞ 稲ゆ ろ 蕎ぶ ちくちやアほ ちう
稲人へ八 イシまく 田今ち人でこをあ ちう 拵石 性ちしる
ちんぞ。 お ちを ちのへ ちぞて ちぞふ 国ふ ちあ ちを ちと

ぶんトぶ ぶんぞこんぶちゑ ろ やう ゆ しら 夷 とぶふ あ ゆ し ひ ろ ぶ
ろ ち ち ろ ち ち ろ ち ち ち

[illegible]

加藤[illegible]の独歌

難波江のうつ[illegible]張[illegible]

かも[illegible]を吉日とす

道中膝栗毛後編大尾